

宮田織物 株式会社

〒833-0003 福岡県筑後市羽犬塚375
TEL 0942-53-5181 HP <https://miyata-orimono.co.jp>



公式HP

業 種 製造業
従業員数 40名
資 本 金 1,000万円

事業内容

見えない所に手を抜かない。ひと織りひと針愛情込めて

1913年創業。久留米絣の工房から始まり、わた入れはんてん、作務衣、甚平、婦人服などの製品を、企画から糸選び、デザイン、生地織り、裁断縫製まで一貫生産にこだわる。伝統を継承し、新しい知識を得ながらオリジナルの製品を生み出す。筑後の街と共生しながら、「一隅を照らす」の理念の下、社員一丸で製造販売を行う。



改善成果のポイント

訪問支援回数 | 18回^{*1}(支援期間:23カ月^{*1})

- 5S^{*2}活動から様々な学びと習慣を習得
- 品質マインドを醸成し、品質管理手法を習得

(*1) 1期、2期の合計 (*2) 整理・整頓・清掃・清潔・躰



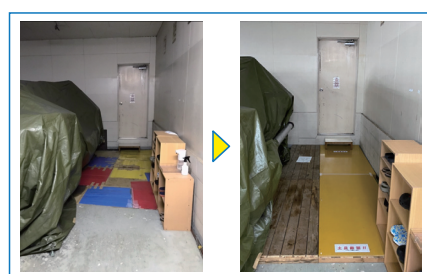
宮田織物株

Q どんな困りごと(課題)がありましたか？

生産性向上支援センターとの取り組みは現在3期目となっており継続的に改善を続けております。1期目は5Sの習慣化、2期目は品質マインドの醸成、そして3期目は品質管理体制の構築を目指し現在も活動中です。

1期目は当社の従業員が工場内の部材散乱や整頓状況に疑問を持ち、各部門も同じ状況だったことからボトムアップで問題提起し、生産性向上支援センターと共に5Sに関する知識を習得していきました。2期目は以前から課題感のあった品質状況の改善を行うこととしました。当時は市場クレームの分析や、どの工程から問題が起きやすいのかの分析、顧客対応の標準化などできておらず、属人的な対応がまかり通っておりまして。品質管理の元となる生産管理についてもうまく行っておりませんでした。現在は3期目ですが、品質マインドの醸成は2期目で活動の中心となった担当者たち以外は未だ十分とはいえず、徐々に各部門に展開し、品質管理体制構築といったレベルに昇華させようとしています。

課題 ① ② ③



5Sの成果一例

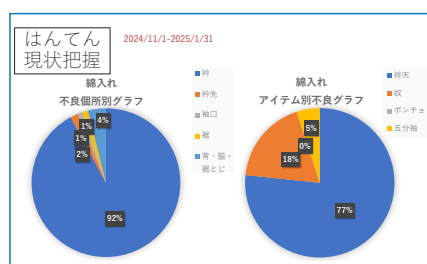
品質管理向上委員会プロジェクト日程表					
	11月	12月	1月	2月	3月
現状把握					
現状分析 要因特定					
対策立案					
対策実施					
効果の確認					
進捗と 標準化					

品質プロジェクトの発足

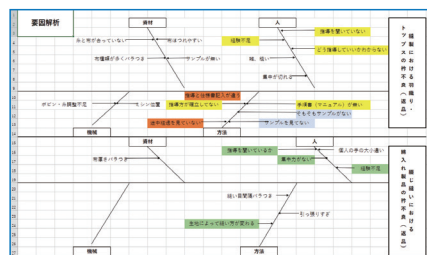
Q 改善の取り組み内容を教えてください

1期目の5S活動は、生産性向上支援センターの講習を受けて改善活動の視点を養い、実際に他社工場を全員で見学して、自社に不足しているものや、どうあるべきか等を検討し、プロジェクトチームを作り対応策を考えていきました。実施スケジュールを明確化したことで、活動にメリハリを与え、遅れについては挽回していきました。

2期目では、取締役をプロジェクトリーダーとしてデータ分析を行い、不具合種別のパレート分析、特性要因図を用いた原因特定、不具合別の対応策等を各部門のプロジェクト構成員達と細かく検討してゆきました。また、属人化していた従業員技能教育方法や顧客対応に関しても、対応基準をマニュアル化し、均一な人材育成ができるようにしました。生産管理に関しても遅れの挽回が可能な帳票を作り、従業員に生産優先度を判断させることで柔軟な生産が可能になりました。このころ二重ビームという生産設備を導入することで品質も著しく改善し、生産速度もアップしてゆきました。



不良の現状把握及び解決優先順位



特性要因図による原因分析

Q 取組んで良くなった点を教えてください

メインの
効果
(改善点)

基本に立ち返り、社内全体で意識とルールの再共有から始め、整理整頓を日々の習慣として定着できました。現場環境が明るく整い、作業効率も向上しました。他、作業導線の見直しでムダな動作が減り、点検や清掃のルールの徹底でトラブルの未然防止にもつながりました。

活動により品質への意識も高まり、自分たちで改善しようという前向きな風土が少しずつ根づいてきました。5S活動の成果が、目に見えるかたちで現れたことで、社員一人ひとりが小さな成功体験を積み重ね、仕事へのやりがいや自信にもつながっています。



はんてん(とじ)の基準書作成



副次効果

各部署間でのコミュニケーションが活発になり、必要な情報の共有や連携がスムーズになりました。相談しやすい雰囲気自然と職場に生まれ、作業の中でもちょっとした気づきを遠慮なく伝え合えるようになり、チーム全体の一体感や協力体制が強まりました。



今後の目標

今後は現在の取り組みテーマである『品質管理体制の構築』を目指します。この取り組みは1期目の5S、2期目の品質マインドの醸成から発展的につながっており、生産性の向上に大きく寄与すると考えています。従業員の意識の更なる変化を感じています。



2重ビーム導入で不良ゼロに!

企業様の声

客観的な視点によるご指導を受けたことで、自社では気づくことができなかった課題や改善のヒントを得られました。現場に寄り添ったアドバイスにより社員の信頼を得ることができ、自然と前向きな姿勢や行動が生まれ、少しずつ改善が定着し、自走する力が育まれつつあります。

今後も学びと実践を地道に重ねながら、より良い組織と職場づくりを目指していきたいと考えています。

宮田織物株式会社
取締役
湯浅 文博 様

生産性アドバイザーから一言

大変楽しく取り組ませていただきました。1期目の5S活動は従業員側からのボトムアップでの取り組みであったので、圧倒的な熱意を感じこちららも勉強になりました。2期目の品質マインドの醸成においては取組に対する理解が進まずリーダーは苦労しましたが、最終的には深い理解が得られ、3期目の現在、品質管理体制の構築という形でつながっており、成果が楽しみです。

生産性アドバイザー
堤 恒弘